令和５年度訪問型家庭教育支援推進事業 第３回専門講座

１．日　時　令和６年３月１日（金）　１３：３０～１６：００
２．場　所　湯浅えき蔵３階　地域交流センター
３．参加者　参加者 46 名
４．内　容

●令和６年度訪問型家庭教育支援の充実をめざして～すべてはこどもたちのために～
□**提案発表　九度山町家庭教育サポートチーム「きらら」の活動について**
発表者　九度山町教育委員会　家庭教育支援コーディネーター **東芝　美由紀 氏**
◆グループ協議①『チーム九度山の“ココ”に共感！』
◆グループ協議②『訪問してこそ分かった○○』
□**指導助言**　湯浅町家庭教育支援チーム「とらいあんぐる」リーダー **上田　さとみ 氏**

□提案発表

１）「きらら」の概要
・令和２年　教育と福祉の連携、切れ目のない支援をめざしてサポートチーム発足
・令和３年　“子どもたちの瞳が、笑顔が、輝きますように”の願いからチーム名を「きらら」として文部科学省の家庭教育支援チームに登録
・現在 28 名の家庭教育支援員が在籍

２）おもな活動内容
・ベルト型訪問　・入学説明会での保護者懇談会　・親子活動
・保護者、支援員対象の講座開催　・不登校支援（児童生徒の居場所づくり）
・会議（情報共有・活動内容等）　・傾聴を意識した相談対応
・保育所、幼稚園、療育施設の訪問(5 月・8 月)　・母子支援施設との情報共有
・家庭教育情報誌「さなだっこ」の発行（年２回）

３）訪問事業について
・小１、小４、中１対象　・入学説明会での告知
・訪問時期（６月～７月）
◎家庭教育支援員より報告書の提出 → SSW の助言
◎会議で情報共有
・継続的に支援が必要な家庭には支援員が関わり、専門職や専門機関につなぐ。

４）不登校支援について
・令和３年度にスタート
・児童生徒の居場所づくりとして主に公民館で月５～６回、学習、読書、手芸、クッキング

など、こどもの意思を尊重した活動を行っている。

・学校との連携を大切にし、家庭の様子などを共有してアセスメントに活かしている。

5）成果と課題

成果

・傾聴を意識した家庭教育支援員の対応が保護者の安心感につながっている。

・訪問により早期発見、早期支援につながり、保護者の悩みの負担軽減につながっている。

・「きらら」の活動が広く周知され、地域全体で子育てを支援する大切さが浸透してきた。

・教育と福祉の連携により、切れ目のない支援ができている。

・不登校支援を通じて、こどもの成長や保護者、家庭教育支援員の思いの変容につながっている。

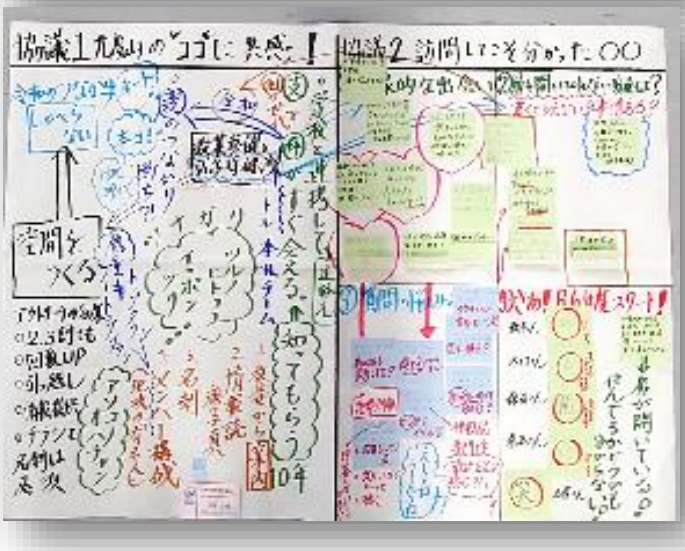
課題

・支援を届けたい家庭へのアプローチ　　・人材確保

・家庭、学校、連携機関をつなぐ人材（SSW 的な役割をする人）の育成

・家庭教育と学校教育のさらなる連携

◆グループ協議①・②の様子



□指導助言

九度山町は４年たたないうちに活動を軌道に乗せるなんて、素晴らしいですね！

☆みなさん活発に楽しそうに協議をしていましたね。

☆家庭教育支援は「保護者」への支援です。訪問し、関係性を築いていくのですが、訪問で会うことを目的とするのか、つながりづくりを目的とするのか、相談を目的とするのか、目的を明確にしておくことが大切です。「保護者と会えない時はどうすればよいか」について協議していましたが、無理に会おうとするのでなく、会うことができないのも情報の一つです。

☆傾聴は支援員の基本だと考えます。些細なことを支援員に尋ねる保護者もいます。思いを聴いてくれる人、話しやすい人、尋ねやすい人にこそ、保護者はおしゃべりをするし相談もするのです。

☆困り感をもたない保護者に確実に支援を届けることについて協議していました。困り感を感じてもらえるような言葉がけや、保護者が困り感を感じるまで待つことが大事です。長年訪問を続けていると、いつでも話を聴いてもらえる「安心感」が町に育まれてきます。

☆訪問型家庭教育支援の体制づくりについて、チーム立ち上げ時はいろいろ不安等もあるかと思いますが、やっていると自然と形になってくるものです。由良町のチーム立ち上げ時に、担当の方が「今、○○について困っています。」と言っておられたのが、２年後の今日この講座で会い、「上田先生、順調です！」と言ってくれたので、私もうれしくなりました。

☆福祉と教育の連携についても協議しました。組織の連携・協働は難しいかもしれませんが、まずは一人の支援員と一人の保健師、というふうに個人のレベルからスタートです。小さな協働の実績を重ねていくことにより、連携が生まれるのではないでしょうか。

５．アンケート（回収３６名）

①参加者内訳

- 家庭教育支援関係者（14）
- 保健師（2）
- 福祉行政担当者（1）
- 教育行政担当者（6）
- 民生児童委員（5）
- 園、学校関係者（1）
- 訪問支援員（4）
- 社会教育委員（1）
- 小学校 PTA 副会長（1）
- 看護師（1）

②参加者の感想（一部抜粋）

◎提案発表

・現在、自分の町で家庭教育支援活動がスタートしていない状態で九度山町の取組事例や経験の発表を聞かせていただき、大変参考になりました。

・大変すばらしい活動をされていると思いました。特に保護者から訪問支援員への相談をきっかけに始まった不登校支援がとても良いと思いました。困っているご家庭への直接的な手立てを考えられたのは本当にすごいことだと思います。これからもぜひ続けていっていただきたいと思います。

・家庭教育支援の活動を知ってもらうことが大事だと感じましたので、就学時健診、入学説明会、授業参観などを利用して保護者の方に広めることは大変良いと感じました。

・電話連絡で日程の約束をして、訪問できているというのが印象に残っています。事前連絡するだけでも、家庭と繋がるきっかけになるということが良いなと感じました。

◎グループ協議①・②

・信頼関係の大切さなど、共感していただけた点が多く、本当に良かったと思います。

・令和６年度に新規事業を始める町として、色々と役に立つ内容がたくさんありました。不安も軽減され、間近に迫ったスタートが安心して切れそうです。

・それぞれの市町の目的に合った取組を考えて、その市町のオリジナルの形で続けていくことがとても大切だと思いました。

・訪問支援を始めているところ、これから始めていくところ、様々な立場の方の話を聞くことができて大変参考になりました。訪問支援が当たり前になっている町にいますので、私の町でも、立ち上げる時の悩みや苦労があっただろうと思いながら聞かせていただきました。

◎助言、質疑応答で気づいた点など

・多くの立場の方の話が聞けたことは本当に参考になります。

・皆さん、どのグループも活発な意見が出ていて、参加者も満足し、とてもいい学びになったと思います。私もたくさん気づきをいただきました。

・「家庭教育支援チームがあればいいな」「やりたいな」の思いから、まず始めることが大事という話が印象に残りました。

・“個人的なつながりでつながり、一緒に動く”という言葉が印象的でした。

・訪問の目的を明確にすること、それぞれにバランスを大切に相手の立場を考えていくこと。柔軟な対応を考えて活動していこうと思いました。